

常照

第 846 号

知ることの難しさ

「自分のことは自分が一番知ってる」と思い込んでいる人がいます。また私たちには「自分の生きたいように生きる」という気持ちがあります。そして他人の言うことは聞かない。なぜなら他人の言うことは間違っているからだという発想になるかもしれません。これらの考え方や発想は自分の思いや行動が一番正しいという気持ちからおこるのではないのでしょうか。それなのに私たちは自分の生

き方や心のありようを改めて問うということにはなかなかありません。またありのままの自分を知るのは容易なことではありません。

しかし親鸞聖人は仏さまの教えに出会って自分自身を知ったのです。教えによって明らかにされた自分の姿は「罪悪深重煩惱熾盛の衆生」（ざいあくじんじゅうぼんのうしじょうのしじゅう）そのものだ。自益のために他を傷つけ、いのちを奪い、果てることのない煩惱に苦悩している。それが私の姿と言われました。

「誰も傷つけてはいない」ましてや「いのちを奪うなどんでもない」と思われるかもしれませんが、例えば、私たちが生きるために毎日とり続けている食事は、いつも何かのいのちを奪っているの

です。「生きるためには仕方がない」という開き直りは人間のエゴでしょう。どこまでも他を傷つけ、いのちを奪って生きています。それが事実です。私たちは様々な煩惱に身と心を縛られています。なかでも「貪欲」(とんよく)「瞋恚」(しんに)「愚痴」(ぐち)の「三毒の煩惱」と呼ばれるものがあります。

私のすがた

「これで十分」ということがない。これが「貪欲」です。ウルグアイの元大統領で「世界でいちばん貧しい大統領」と呼ばれたホセ・ムヒカさんという方がおられます。財産と呼べるものは小さな家と古い車のみ。大統領の給料として支給された月一一五万円の九割

を社会福祉のために寄付されていた方です。彼は「貧乏な人とは少ししか物を持っていない人ではない。無限の欲があり、いくらあっても満足できない人のことだ」と言われました。どこまでも満足しない、まだ欲しい、もっと欲しい、そういう限りない欲のことを「貪欲」というのです。

また、私たちは自分の価値観や思いを握りしめて、自分は正しいと思えば一歩も譲りません。お互い自分の主張を通そうと言い争い、それが通じなければ相手に対して腹を立てます。また、自分は正しいと思いついていると、都合なことが起こったとき、失敗したとき、その原因を他のせいにしていきます。そして、そこでもやはり腹を立て、怒り、ときには憎

むことさえあるのです。そのよう
な「怒り」「憎しみ」を「瞋恚」
といいます。他人事ではありませ
ん。一度でも夫婦喧嘩をされたこ
とがある方は、思い当たることが
ないでしょうか。

三つ目の「愚痴」とは「本当の
ことが分かっていない」というこ
とです。一般的には「愚痴をこぼ
す」というように、不平不満が口
からこぼれることを言います。そ
して、その原因はたいいてい人間関
係から起こります。お釈迦様はす
べてのものは縁によって起こり、
縁によつて滅していくという「縁
起の法」を説かれました。それは、
あらゆるものが関わり合っている
ということですよ。自分も他の人も
互いの存在に意味があり、関わり
ながら支え合つて生きていくとい

うことです。しかし、そのことが
分からず、自分の基準やものさし
でしか物事を見ることでできな
い、愚かな知り方なので「愚痴」
というのです。本当のことが分か
っていないからこそ、自分の思い
だけで他に対して不平不満をこぼ
していく姿をいうのです。

いい当てられる私

仏さまの教えによつて明らかに
された私たちの姿は、決して居心
地の良いものではないかもしれま
せん。自己中心的な生き方であつ
たり、欲にまみれ、自分の思いを
握りしめ、腹を立てたり憎んだり。
つながりや関係の中で互いに支え
合いながら生きていくにもかかわ
らず、そのことが分からないまま
迷い続ける私の姿が照らし出され

るからです。親鸞聖人も自分が一番正しい人間と思われたことがあったかも知れませんが。しかし仏さまの教えに出会い、自分の姿や心をいい当てられ、「罪悪深重煩惱熾盛の衆生」であったとうなずくことができたのです。自身を知ることがはつらくてイヤなことですが、私にとつて尊いことであり、有り難いことである。そして自身の姿や心をいい当てられることが仏さまの『救い』と実感されたのでしよう。

私たちも仏さまの教えを聞くことによつて、いまの私を知ることができます。そして「有り難う」と仏さまにも有縁の方にも報告できる人生をともに歩みたいものです。

七月の常例布教(ご法話)のご案内

○前期 七月七日(日)〜十一日(木)

安芸教区 山県太田組 安養寺

講師 小林 邦 頭師

○後期 七月十三日(土)〜十六日(火)

北海道教区 十勝組 顕勝寺

講師 芳 滝 智 仁 師

○場 所 小樽別院内

○時 間 午後二時(法要終了後)〜 午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話を
して頂きます。どうぞお誘い合わせいただき、
ご聴聞に来院ください。席の間隔を保ち、換気
実施の上、お待ちしております。

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 (〇三三四) 一一一〇七四四番
FAX (〇三三四) 一一九一四〇八〇番
テレホン法話 一一七一六一六番